

外国語教育とeラーニングへの新たな取り組み



海外交流

高橋 明*

A New Trial of Foreign Language Education Using e-Learning Program

Key Words : Foreign Language Education, e-Learning Program

世界言語研究センターは研究センターとして現在いくつかの教育・研究プロジェクトに取り組んでいます。中でも、「紛争地域の地政学的研究」「社会人を対象とした学士レベルの言語教育プログラムの提供」と並んで、さらに最重要なプロジェクトとして位置づけているのが、統合を契機として、サイバーメディアセンター、言語文化研究科と連携して取り組むこととなった「高度外国語教育全国配信システムの構築」プロジェクトです。

現在、このプロジェクトは小泉潤二副学長・理事を責任者とするプロジェクト推進会議の下に各委員会が構成されて、それぞれ関連する作業に取り組んでいます。また、プロジェクトリーダーとしてサイバーメディアセンター長の竹村治雄教授が、事業全体の円滑な進捗についてリーダーシップを発揮されています。

事業の詳細については後で述べるとして、世界言語研究センターが外国語教育について新たにeラーニングに取り組むにあたって、本センターと外国語学部における教育との関連がありますので、それについて若干の説明をしておきたいと思います。

外国語学部ではご存知のように、世界の25の言語に関する4年一貫教育を、「専攻語」教育として学部専門課程のコアカリキュラムと位置づけて実施しています。専攻語教育は1年生から始まり、4年

生まで続きます。高度な語学の運用能力を身に付けるということからすれば、それ自体が目的であると同時に、身に付けた語学の力を基に世界各地の言語、文化、社会に関する専門的な研究を進めるということでは、そのための手段でもあります。少し割り切った表現をすれば、学部においては、教員の研究成果や日々の授業での努力の多くが高度な言語学習のために投入される一方で、研究科においては、反対に言語学習の成果の多くが専門分野の研究に投入される構造にあると、言ってもいいかもしれません。こうしてみれば、外国語学部、世界言語研究センター、言語文化研究科言語社会専攻は組織の目的としては、お互いに三位一体の関係にあるとも言えます。

今回ご紹介する「高度外国語教育全国配信システムの構築」プロジェクト(ちなみに、われわれは内部では「高度配信」と言い慣わしてきましたので、これ以降の文章では、この短い名称を使うこととします。)のうち、われわれが主に担当している言語コンテンツ作成については、統合前の旧大阪外国語大学時代の試みの成果が重要な基礎となっています。

言語教育にITを取り入れることに関心を持つ複数の教員が独自にコンテンツを作成して、自分の授業の中で使用するといういわば試行的な試みは、かなり以前から旧外大内で行われていました。やがて複数の科学研究費による経費支援を得ることによって、それまでの個々の成果を集約することが可能になってきました。中でも重要な成果としては、自動採点機能と多様な選択問題作成機能を持つeラーニング用問題集作成ソフトoq-playerシリーズの開発を挙げてよいかもしれません。これは現在はサイバーメディアセンターに所属されている小島一秀講師の功績でした。また、平成17年から19年まで、文部科学省の現代GPの取組として、旧外国語学部の



* Akira TAKAHASHI

1953年12月生
大阪外国語大学大学院西アジア語学専攻
(1983年)
現在・大阪大学世界言語研究センター
センター長、教授 Ph.D ヒンディー語
学・文学

TEL : 072-730-5294

FAX : 072-730-5294

E-mail : takahashi@world-lang.osaka-u.ac.jp

「異文化障壁を乗り越える対話と交渉能力の育成—実践的言語教育プログラムの展開」が採択されたことで、外国語教育にeラーニングを導入するための支援を得ることができました。このプロジェクトでは、対話交渉シミュレータの開発を行い、それを活用して18言語で映像教材を作成し、外国語学部の3・4年生を対象とする専攻語の授業において利用しました。

もちろん大阪大学でもサイバーメディアセンターだけではなく、言語文化研究科においてもeラーニング教育についての充実した試みがされてきていますし、最近では英語教育に関して言えば最新の工学英語の教育で大きい成果を挙げているとうかがっています。WebCTを利用することで、言語教育だけに限定することなく、eラーニングを教育に活用しようとする試みは大阪大学のいろいろな場面とレベルで現在も進行中だと思います。したがって、これらの蓄積を統合の成果の一つとして目に見える形で、社会に提示しようとするのが「高度配信」プロジェクトの意義であろうと考えています。

さて、ようやく本題ということになりますが、「高度配信」プロジェクトの全体像について、現在、プロジェクトに関する公式HPに記載している文章を適宜まとめる形で、その概略を紹介しますと以下のようにになります。

「世界の多様な言語に関する広範な言語資源を集積し、斬新なマルチメディア言語教材コンテンツを作成するとともに、これらのコンテンツを独自の多言語対応言語独習システムを基に運用し、国立情報学研究所と協力しつつ、全国的な規模での実用配信を実現することを目的としています。大阪大学と大阪外国語大学との再編・統合の成果の一つとして、新たに設置された世界言語研究センターは、統合に関する教育改革の基本理念である「(総合大学としての大阪大学の)多彩な専門的学術研究・教育のシステムと(旧大阪外国語大学が培ってきた)多彩な外国語教育のプログラムを組み合わせることで、国際社会の諸問題に多面的に取り組むことのできる有用な人材、つまり国際社会の中で日本の果たすべき真の役割を担いうる《国際的人材》を養成する(ことを目指す。)」

直接の受益者としては、さまざまな目的と理由か

ら、学習の機会が必ずしも得やすいとはいえない世界の多様な言語の初級レベルの自学自習を希望する社会人、学生、一般人、またそのような教材を利用して初級の語学教育を行おうと希望する行政組織、民間団体、また全国の高等教育機関などを対象としています。

また、本プロジェクトが目的とするもう一つの重要な目的は、教材の配信システムに関わるものです。同じくHPの文章を基に紹介しますと、「この配信システムは、コンテンツを提供するだけで、実際の利用者の便と実質的な効果を軽視しがちであった従来のものと根本的に異なり、デジタル教材を利用しながらも、いわばアナログ的な「手厚い教育・学習」を実現するため、利用者のユーザビリティと教育・学習効果を徹底的に追求するシステムである。」ということになります。このシステムの構築については、サイバーメディアセンターの細谷行輝教授が中心となってこれまで開発してきたWebOCMでの経験を基にしながら、しかし今回のプロジェクトのために、まったく新たに開発を進めているものだとうかがっています。

さて、言語コンテンツの作成に話を戻しますが、たとえば、どのようなコンテンツの作成が進んでいるのか、その基本的なコンセプトについてヒンディー語の事例でご紹介します。これも上述のプロジェクト推進会議からの求めに応じて、資料として提出した文章を基にしています。

「まったくの初学者が、Webを介した学習の結果、簡単な日常会話に頻出する言語機能を、それがもっとも典型的に現れる場面の中で、生き生きと学ぶことができることを目指す。また将来のさらなる学習に対して興味を持つことが可能となるよう、ヒンディー語地域の文化についても触れることができるよう配慮する。全体として、ゲームの要素を取り入れるほか、現地での収集資料を活用した映像教材を作成することで、受講生が楽しく学習を継続することができるよう工夫を凝らす。

そのための全体のコンセプトは、初対面の挨拶、依頼、質問、交渉、相談、拒絶などさまざまな言語の機能を、それに相応しい場面設定の中で、繰り返し学ぶことができるよう12～15課のレッスンを用意する。各レッスンは、5～10分程度のスキット

を基にした映像教材を中心とし、そこで用いられる言語表現に関する文法説明、使用された語彙、さらにそれら全般に係わる練習問題から構成される。必要に応じて文化面での知識も学べるよう配慮する。授業で教員が使用する場合は、副教材として1セメスターで終了することが可能な内容と分量とする。」

以上はヒンディー語の例ですが、言語の性格によって詳細は異なります。文字の学習にかなりの努力が求められる言語や、まず発音の習得が大切な言語などさまざまあります。われわれはそれらの言語の特徴に応じた教材作成を考えています。また、若い学習者を特に考慮して、ゲーム性の強い教材を計画している言語もあります。また、映像が中心になる

教材、またテキスト教材に重点を置いた教材など、教材の性格についても個性豊かな教材群ができあがることになっています。この多様性、言い換えれば創造性こそが今回作成している言語コンテンツの最大の特徴だと考えています。

最後に、世界言語研究センターで作成したプロジェクトの広報に関するHPのURLも記載します。コンテンツ自身の事例についても、本誌の刊行に間に合うように、PRのためにいくつか事例をアップしておきたいと思っていますので、興味のある方はどうぞご覧ください。

<http://www.world-lang.osaka-u.ac.jp/>

[user/flc/koudo.html](http://www.world-lang.osaka-u.ac.jp/user/flc/koudo.html)

